



JAC北九だより

No. 109 (令和8年 第1号)

公益社団法人 日本山岳会 北九州支部

Kitakyushu Section of The Japanese Alpine Club

発行：公益社団法人 日本山岳会北九州支部
支部長 竹本 正幸
事務局：北九州市小倉南区志徳 1-1-29-104
清家 幸三方
TEL 自宅 093-963-2160
携帯 090-8664-4411
編集人：橋川 潤
印刷：山口県山口市水の上町 2-25
内藤製本所



赤い木の実たち

新年のごあいさつ

北九州支部長 竹本 正幸

新年あけましておめでとうございます。

旧年中は支部の活動にご協力を賜り誠にありがとうございました。本年もなお一層のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

昨年は、行事が多い年でした。9月には九州5支部懇談会が熊本であり、10月には槙有恒碑前祭に続き、関西支部設立90周年記念式典・第36回全国支部懇談会が大阪で開催されました。

11月は、広島支部、山陰支部、四国支部、北九州支部の4支部交流会が当支部担当で開催されました。九重やまなみキャンプ村に39人が集い紅葉に囲まれた自然の中で焚火を囲んで山の話題に花を咲かせました。準備に携わった役員や会員の方には、大変なご苦労があったと思います。心よりお礼申し上げます。

日本山岳会は全国に支部が存在するため各支部との交流ができる特権があります。行事に積極的に参加して他支部の人々との交流を深めることをお勧めします。

公益事業は、裁判所委託登山、幼稚園児のハイキングサポート、平尾台のセイタカアワダチソウの除去、森林保全活動などを継続します。

「山の日記念登山」は、猛暑を避けるため、11月に一般公募をして平尾台で実施しました。地理学や

植物の観察など行いたいへん好評でした。今年多くの方が参加できるように立案します。

共益事業は、月例山行を主軸にジオトレッキングと共にボレボレ山行を進めてまいります。

昨年は5人の方が正会員になりました。会員が減少するなかたいへん喜ばしいことです。公益社団法人日本山岳会員としての自覚のもと今後の活動を期待します。

楽しい山登りを続けるためには、安全であること。そのためには、基本をしっかりと守り、行程、体力、技術面で余裕を持った山行計画を立て、グループ登山では、リーダーシップやメンバーシップを守り、楽しく安全な登山を心掛けましょう。守って頂きたいことは、計画書の作成と期日までに安全委員会へ提出することです。近隣の山歩きでも、行き先を家族に伝えるかメモを残すよう心掛けて下さい。

楽に生きるよりも、楽しく生きるために日々のトレーニングが欠かせません。山に行くこと、行事に参加すること体力の維持のため努力を怠らない。安全登山をベースにクラブライフを楽しんでください。

最後に会員の皆様のご多幸と北九州支部がますます発展しますよう祈念して新年の挨拶とさせて頂きます。

令和7年10月19日（日）

～第9回 横有恒碑前祭～

17126 大山 時彦

門司港駅8時に集合後、風師山風頭に登り記念式典が執り行われ、下山途中の「門司クラブ」にて12時より懇食懇談会が行われました。

横有恒碑前祭は日本山岳会120周年記念行事の「引き継がれる山岳祭」として重要な支部行事の一つであることから、数回の役員会や総務委員会にて



飯田副会長の挨拶（写真 竹本加代子）

詳細を煮詰めて万全の態勢で臨みました。

今回も本部からの飯田副会長や坂井山岳会プロジェクトリーダーをはじめ、東九州支部、熊本支部、地元の門司歩こう会、風師山早朝登山会及びマスコミ関係からは毎日新聞社

と多くの方々に支えられ、支援協力の下で開催されました。

風頭は標高364mで門司港一面が見渡せる位置に記念碑があり、式次第に沿って式典が厳かに行われました。ご高齢の方々は途中までの登りでありましたが毎年参加されていると聞き頭が下がる想いでいた。

懇談会会場では会食前に飯田副会長の氷河に関する短時間の講演がありましたが、もっと時間をとつてお聞きしたい内容でした。

そして、今年お亡くなりになった伊藤久次郎さんへの全員での黙祷を捧げたあと酒宴を交えた会食の運びとなりました。本部や九州他支部の方々から「来年は10周年にあたることから、引き継いでいけるように参加協力をしていく」と口々に励ましの言葉をいただきました。

最後は東九州支部の音頭で「坊がつる賛歌」を全員で歌い閉会となりました。（懇談会参加者35人）

～新聞に掲載されました～

「雪山賛歌」風師山の秋空に響く 横有恒しのぶ碑前祭

1956年にマナスルへの世界初登頂を果たした日本隊の隊長で、元日本山岳会会長の横有恒をしのぶ碑前祭が19日、北九州市門司区の風師山近くの風頭で開かれた。日本山岳会北九州支部の会員を中心に、東九州支部、熊本支部の会員ら計35人が参加した。（中略）

19日はあいにくの曇り空だったが、北九州支部の竹本正幸支部長のあいさつと献花に続いて来賓として登った日本山岳会の飯田肇副会長が「素晴らしい景色を見せていただき本当にありがとうございます。横の碑がここにあり、地元の皆さんのが顕彰し、守り続けていることに感謝いたします。」と述べた。その後、全員で「雪山賛歌」を合唱すると爽やかな歌声が秋空に響き渡った。（後略）

毎日新聞朝刊（北九州版：令和7年10月21日）より引用



碑前祭集合写真（写真 竹本加代子）

式典参加者

来賓 15人：森武昭 坂井広志 飯田肇 加藤英彦 阿南寿範 深草秀明 飯田勝之 安東桂三 石川洋祐
工藤吉子 土屋多喜子 佐藤千恵美 城戸邦晴 小田幸雄 柳原寛実
北九州支部 21人：園川陽造 曰向祥剛 板倉健一 馬場基介 高畠拓生 関口興洋 丹下治 武永計介
丹下香代子 竹本正幸 竹本加代子 森本信子 町元里香 清家幸三 横山秀司 大山時彦 将口晋司
安倍功 大谷陽子 綱川和幸 田中孝明
毎日新聞社（取材）反田記者

令和7年8月31日（日）月例山行 平尾台千仏谷
～顔面に水を浴びながらコケ満載の岩を登り進む～

北九 549 田中 孝明

<コースタイム>

- 8時30分 平尾台自然観察センター駐車場集合
- 9時00分 沢登り開始場所（＊1）まで2台に分乗して移動（下り道約8分）
 - *1：直方行橋28号線の第1カーブ（行橋からの最初のカーブ）
- 9時10分 入渓
- 11時40分 脱渓＆全員写真撮影
- 13時 解散

沢登り靴、ハーネス、ヘルメットなどの装備を身に着け、いざ入渓。程よく木漏れ日が漏れ、水に入ることに全くためらいを感じないありがたい天候であった。これまで山歩きでは沢に出くわすと濡れることは避けるのが常であったが、今回は喜び勇んで沢に足を踏み入れ、突き進むという特別な機会だ。

子供のころ雨ですぶ濡れになってしまい、開き直って大胆に水に溶け込む、あの感触を思い起こしながら、老若（？）男女の8人での“わんぱく沢登り”である。

今回のコースは大小6つほどの滝があり、初級から中級向けとのことだが、大の滝では先頭のリーダーに確保いただいた命綱を頼りに、顔面に水を浴びながら、荒い息使いでコケ満載の岩を登り進む。知らず知らずのうちに水しぶきを美味しく頂いたせいか、途中の水飲み休憩では、敢えて水分補給が要ら



沢登り（写真 町元里香）

尻もち”とは違い、ゆったりと水中に腰が沈むといった、沢ならではやさしさも味わった。最後の大滝を上り切り、流れてくる水を辿ると人が立ち入れな

なかったのは私だけではなかったようだ。
滝以外では、緩やかでひざ下の水位ぐらいが続き、その歩行中、足を取りられつまずくこともあったが、山歩きの“すってんころりん



沢登り（写真 町元里香）

い小さな横穴が開いた20㍍程の絶壁があった。『楽しい沢登りも、ここまでよ』と誰もが思えるこの場所で終了となった。

リーダーの食事タイム！により昼食をとり、その後写真撮影。

上述の横穴は千仏鍾乳洞に繋がっているらしく、水とともに冷風を噴出させており、その冷風がわんぱく達の身に凍みたが、全員カメラに向かって、満面の笑顔を振り絞り、はいチーズ。

大人を子供に戻させてくれた今回の冒険ツアーは、今年の夏を締めくくる素晴らしい体験となった。

最後になるが、事前に当日の調査いただいた竹本さん町元さん、そして共に登り切った仲間へ感謝を述べたい。

次回は、あの小瓶の栄養ドリンクを片手に皆で“ファイト一発”を叫ぶことを楽しみにしている。

参加者8人：竹本正幸 繩手修 町元里香 清家幸三 中畠智子 仙崎宏 綱川和幸 田中孝明

令和7年9月20日（土）～21日（日） 九州5支部懇談会
～熊本支部主催で九州5支部懇談会開催～

14853 竹本 加代子

20日の初日は古道調査発表会が行われ、各支部30分の時間で進行された。古道調査の大変さ、その工程を伺い知ることが出来た。北九州支部は榎会員が発表された。我々もその調査に携わった者として言い尽くせない費やした時間と肌で感じた修験道の歴史が思い出された。そして、それは良い時間でもあった。その後ホテルへ移動して懇親会となった。

翌21日は、阿蘇修験者の道「馬の背ルート」の記念登山となった。この日のために急遽作られた駐車場へ乗り合って登山口へ向かう。なにしろ観光道路とあって車が多い。火を噴く阿蘇山が山岳信仰の



九州5支部懇談会集合写真（写真 熊本支部）



古道調査報告の榎会員（写真 竹本加代子）

対象になり道路が開通するまでこの「馬の背ルート」が使用されていたと言う。このルートは古道とおぼしき痕跡が残念ながらほぼ見当

たらず、牧野の中にあって分かりづらく草茂る中テープを頼りに進んだ。熊本支部の皆さんのご苦労が忍ばれた。午前中は曇り空のためさほど暑くもなく、眺めは抜群で左手には根子岳、高岳が望めた。高度が上がると右手に杵島岳、往生岳のたおやかな山々が見えその南に位置する烏帽子岳が見え隠れしていた。広々と広がる緑の草原が目に優しく癒された1日でした。

参加者 48人 北九州支部7人：榎俊一 竹本正幸 塚本久嘉 清家幸三 横山秀司 大山時彦 竹本加代子

令和7年9月27日（土）月例山行
～宝満山窟巡り～

17022 折野 道法

コースタイム：竈門神社 7:38→女道→福城窟→中宮跡 9:15→法城窟→楞伽院山荘 10:30→仏頂山 10:53→釜蓋窟→宝満山山頂（829m）11:33（昼食休憩 12:22）→（羅漢道）伝教大師窟→中宮跡 13:25→竈門神社 14:59→下山完了 15:13

距離 8.9km 累積標高 984m 山行時間 7時間50分（休憩82分）

9月月例山行に宝満山の窟巡りをして来ました。残暑で思ったより蒸し暑いお天気でしたが、秋雨前線のぐずついた天気が続く中で幸いにも雨は降らずに秋風にも恵まれた月例山行になりました。ルートは、竈門神社に安全を祈願して正面登山道を林道～女道から仏頂山と宝満山の窟を巡ります。

宝満山の山中には五井七窟という修行の場があつたと言われ、井は水場の井戸が五カ所で、窟は雨露をしのぐ岩屋が七窟あり、現在はカモシカ新道が通

れずそこにある三窟は諦めて福城窟、法城窟、釜蓋窟、伝教大師窟の四窟を巡りました。なかなか巡る機会の少ない修験の山・宝満山中の七窟を訪ねて歩く興味深い山行で、なかなかレアな山行に先導頂いた三浦リーダーに感謝致します。

・こんな雰囲気の山行でした。

① 福城窟の次の法城窟を探すが悪戦苦闘していると、何故か？縄手さんがボランティアの方と現れ詳しく教えて頂いた。

② 法城窟はボランティアの方に先導して頂いて法城窟に入る。

法城窟は宝満山の祭神でもある玉依姫の陵墓と伝わる神聖な窟で法城窟を通り抜けると生まれ変わると言う。

途中の愛敬の岩に着いた…眼を閉じてこの岩に行き当たる時は、人の愛敬を得る故にこの名あり..との事。楞伽院山荘に寄つたらなんとアサギマダラが！…

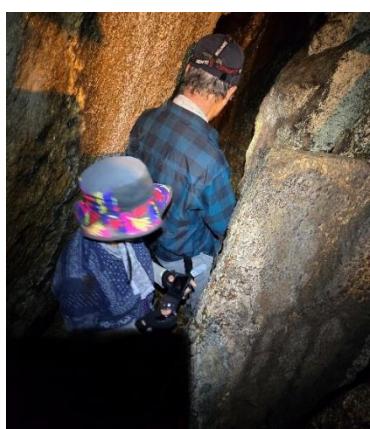
③ 次に楞伽院山荘から釜蓋窟を探す。

釜蓋窟は仏頂山の手

前をうさぎ道の方に進み尾根を下って行くと岩塊の間に祭壇がある。はずなのだけれども？ 宝満山の山頂に向けて岩場の登り宝満山 829m 山頂で昼食をとる。

太宰府の宝満山は大人気で、霊峰とも福岡の高尾山とも言われる程の人気のお山、この日はシンガポールのGuys3人も楽しんでいました。

参加者 10人：三浦利夫（CL）竹本加代子 縄手修 町元里香（SL）横山秀司 藤原玲子 太郎良嘉親
橋川潤 安藤匡 折野道法



通り抜けると生まれ変われる
法城窟（写真 竹本加代子）

④ 本日ラスボスの羅漢道に下り百済羅漢から更に奥へ伝教大師窟（宝塔窟）で無事に窟巡りを終えた。

宝満山七産の残り三窟（大南窟、剣窟、普池ノ窟）はカモシカ新道が通れるようになったらお楽しみです。



宝満山山頂は多くの登山者で賑やかでした
(写真 折野道法)

**令和7年10月4日（土）ボランティア活動
～平尾台におけるセイタカアワダチソウ除去作業～
16382 横山 秀司**

雷雨の予報が出ていたが、曇り空の8時30分に吹上峠駐車場に集合して作業を決行することにした。平尾台自然観察センターの職員から、今年は台風の



セイタカアワダチソウ除去（写真 横山秀治）

襲来がなかったのでセイタカアワダチソウとオオブタクサの成長が著しい旨の説明を聞いた後、作業を開始した。今年度は吹上峠駐車場の周囲と石仏周辺で行った。11時頃になると日本海方面から雷雲が迫ってきたので、この日の作業を終えた。参加者の皆様にお礼を申し上げます。

ところで、私たちは令和3～5年にかけ岩山付近のセイタカアワダチソウの除去作業を行った。令和7年11月初旬、ここを通過した際、完全に除去したものと思っていたセイタカアワダチソウが一面に繁茂していたのに驚いた。人間の完敗である。今後も、このいたちごっこを続けていかねばならないのだろうか。

参加者 13人：馬場基介 竹本正幸 竹本加代子 奥田スマ子 中畠智子 赤瀬栄吉 清家幸三 横山秀司
太郎良嘉親 堀内博史 安藤匡 安倍功 田中孝明

令和7年10月26日（日）～27日（月）
～関西支部設立90周年記念式典と第38回全国支部懇談会の報告～

13643 関口 興洋

場 所：新大阪 大阪ガーデンパレス

参加者：関西支部を中心に北は北海道支部から南は宮崎支部を含め、総勢160人

北九州支部からの参加者 8人：原広美 関口興洋 竹本正幸 竹本加代子 縄手修 町元里香

藤原玲子 大山時彦

10月26日（日）

(1) 記念式典：水谷関西支部長の歓迎のご挨拶に続き、橋本会長より祝辞を頂く。その後、来賓として出席された大阪府山岳連盟の小畠会長より、ご丁重な祝辞を賜る。

(2) 記念講演：「ヒマラヤの今昔」という演題で重廣恒夫会員（元日本山岳会副会長元関西支部長）の人生を賭けたヒマラヤ・カラコルム山脈の最高峰を含む壮大な山岳登山史を紐解く誠に貴重な2時間にわたる講演を拝聴する機会に接し、感激の極みに浸った。

それにしても、70歳を超えて、日本山岳会創立120周年の記念事業として2020年よりスタートし、2025年に完結したカンチエンジンジングからK2までの「グレート・ヒマラヤ・トラバース」をプロジェクト・マネージャーとして7回にわたり現地踏査された想像を絶する実力（企画・体力・気力）を、どのように維持されてきたのか驚きに堪えません。

詳細な講演のレジュメはルームに備え置きますので、ぜひご覧ください。

(3) 懇親会（18:30～20:30）

8人着席のテーブルが18並ぶ会場の規模に圧倒される。水谷関西支部長の主催者挨拶のあと、柏副会長の乾杯の音頭で熱気のこもる記念の宴が始まった。途中で参加各支部の紹介が行われたが、昨年、設立された東京支部の元気な姿が印象に残った。



東九州支部と「坊がつる贊歌」を歌う
(写真 関口興洋)

閉会にあたり、来年の全国支部懇談会が富山支部主管で開催される旨、河合事務局長から表された。舞台は立山です。具体的な計画の発表が待ち遠しいですね。

10月27日（月）

竹本支部長の若手グループは熊野古道探索へ。原さんと小生の年寄り組は記念観光コースに参加。箕面大滝見物後、重廣さんを囲んで記念の集合写真を撮ってもらう。滝道を下り箕面山瀧安寺参拝、箕面駅前でバスに乗車し勝尾寺へ。勝尾寺で自由行動。大阪万博の余韻が残っているせいか、インバウンドのお客が多い。バスで新大阪駅まで送つ



「ヒマラヤの今昔」の講演者
重博恒夫氏と（写真 関口興洋）



全国支部懇談会参加者集合写真 （写真 関西支部）

てもらい解散となる。

今回、多数の参加者を迎える宿の手配（全員、個室）から会場の設営まで完璧な組織力でビッ

グ・イベントを運営された関西支部の関係者に対し心から感謝申し上げます。

ありがとうございました。

令和7年11月2日（日）一般募集
「山の日記念登山」
平尾台～貫山
16832 横山 秀司

これまで支部では一般募集した親子登山を夏に実施していたが、今回は「山の日記念登山」と称して秋に一般募集して行った。福岡県平尾台自然観察センター、毎日新聞西部本社、小倉南区の後援を得られ、小学生を含め9人の一般参加者があった。

8時30分に自然観察センター駐車場に集合し、センター内で「平尾台の成り立ち」に関する映像を鑑賞した後、登山を開始した。配布した小冊子（地図・解説書）を手にして、カルスト台地特有のドリーネやカレンフェルトなどの地形の説明を横山が行い、秋の花々の図を作成した橋川が花の説明を行なながら登山を行った。大平台と四方台の間では、地質が石灰岩から花崗閃緑岩に変わ

ることによって、カルスト地形がなくなることを確認した。12時15分に貫山頂上に到着し、30分の昼食休憩をとった。

午後は、中峠を経て茶が床へ下り、茶が床に露出している特殊な地質（アプライト岩脈）を観察した。さらに下り、15時前に観察センター駐車場に到着し、解散した。若干、にわか雨が心配であったが、暑くもなく雨も降らず、一般参加者には満足していただいた山行になったと思う。



四方台への急登（写真 大山時彦）



一般参加者を交えて貫山頂上での記念写真（写真 大山時彦）

参加者・支部10人：竹本正幸 竹本加代子 奥田スマ子 中畠智子 町元里香 清家幸三 横山秀司 橋川潤

大山時彦 田中孝明

一般参加者8人（1名当日不参加）



平尾台で見られた花々 左からヤマジノギク キセワタ ヒメヒゴタイ ヤクシソウ ハバヤマボクチ（写真 竹本加代子）

令和7年11月3日（日）引き継がれる山岳祭
～第38回宮崎ウェ斯顿祭～

16382 横山 秀司

令和7年11月3日（文化の日）、ウォルター・ウェ斯顿師の碑がある高千穂町三秀台にて、第38回宮崎ウェ斯顿祭が執り行われた。

祖母山や阿蘇山の展望が素晴らしい三秀台の丘の上にウェ斯顿の肖像がはめ込まれた塔がある。その塔に吊されている洋鐘を地元小・中学生が鳴らし（点鐘）、響き渡る鐘の音から式典は始まった。その後、ウェ斯顿師を偲び、山岳遭難者を悼みつつ登山の安全を祈って黙祷を行った。献花の後、甲斐宗之・高千穂町長、日高研二・日本山岳会宮崎支部長、柏澄子・日本山岳会副会長などの挨拶があった。地元関係者の挨拶では、ウェ斯顿が北アルプスに



ウェ斯顿祭式典（写真 宮崎支部）

登るより1年
前の明治23
(1890)年
11月に祖母
山を登頂して
いることが、
高千穂町の誇
りであると強
調されてい
た。

式の後、
17時30分
より、近くの
野菜集出場広
場において地元・田原地区村おこし推進協議会の主催で交流会が行われた。広場には舞台が設けられており、まず、宮司による登山安全祈念の神事が行われ、その後、神楽の舞も演じられた。日が暮れ冷気が降りてくる中、参加者は地元の人たちが焚き火で温めた竹焼酎のふるまい酒を飲み、地元民の踊りやダンス、太鼓などの演技を見ながら交流を深めた。

会には、日本山岳会宮崎支部の他、熊本支部、東九州支部、北九州支部（清家幸三、横山秀司）会員が参加した。



ウェ斯顿祭式典神事（写真 横山秀治）

令和7年11月8日（土） 四支部交流会
～九重やまなみキャンプ村で四支部交流会を開催して～

15806 清家 幸三

これまでの広島支部交流会に山陰支部と四国支部を加えて四支部交流会の第1回目がスタートしました。

4年に1回になるので令和7年11月8日～9日にくじゅう連山での開催を企画しました。九州を満喫してもらうことを念頭に組み入れ、そして温泉や紅葉を楽しめる計画を立てて進めました。

遠足や修学旅行と同じようなワクワク感で、泊まる場所と会食に気持ちが集中して会食場所の下見の回数が増えました。それと翌日の山行は開催の一週間前から天候に気をもみながら、近づくにつれて前線が避けてくれないかと祈る気持ちに変わってきました。しかし願いは叶いませんでした。実行か中止かの狭間での葛藤の中、やまなみキャンプ場で11月8日の初日に参加者（計39人）の皆さん

笑顔に接触してから不思議なくらいモヤモヤ感が消えてしまいました。



三俣山バックにキャンプ村で（写真 四国支部今井副支部長）

懇談会の盛り上がりは自然に一人酔いしっていました。踊りや坊がつる讃歌も忘れることが出来ない思い出となって刻み込まれました。山に登るもう一つの意義を交流会の中で気づいた貴重な2日間でした。翌朝は雨の中、次回の四国での開催を楽しみに解散式を済ませてそれぞれが家路につきました。

参加者39人：四国支部9人 広島支部9人 山陰支部8人

北九州支部13人：大内喜代子 竹本正幸 竹本加代子 縄手修 奥田スマ子 町元里香 清家幸三
横山秀司 藤原玲子 橋川潤 大山時彦 堀内博史 真鍋卓朗

主催者側として沢山の反省点を悔やみ、お詫び申し上げます。同時に参加者の皆さんのご協力頂き、第1回四支部交流会が無事に終了して次の四国支部ヘバトンタッチができましたことを心より感謝申し上げます。

**令和7年9月28日（日） ポレポレ山行 バスハイク
～霧の天山（1046m 栄）より吉野ヶ里遺跡へ～**

15318 縄田 正芳

7：20小倉駅北口を出発。佐賀方面への道中は時おりフロントガラスに雨が打ち付けるなどどんよりとしてはっきりしない天気でした。目指す天山中宮駐車場へは小城ICで降り霧がかかり少々心細くなるようなクネクネと長い林道を登って行きました。

9：30頃登山口着。幸いにして霧はあるものの傘など雨具は不要くらいなのでほっとしました。よく整備された階段の道を歩き始めると、すぐに木々に囲まれ背の低い鳥居や小さな池のある天山神社上宮に。霧に煙っており少々不気味な感じがしました。そこを抜けしばらく歩くとゆるやかな草原状の道へと続き、まわりには笹やつつじ他高山植物がありその中をゆっくりと登って行きました。5月の下旬頃からミヤマキリシマの花が見られそうです。



天山山頂にて（写真 丹下香代子）

参加者10人：原広美 馬場基介 丹下治 丹下香代子 縄田正芳 今田智恵 奥田スマ子 中畠智子
太郎良嘉親 堀内博史

大きな草原状の山頂へは10：30すぎに着。強い風と流れる霧で頂上標識や記念の塔、石碑など霞んでいましたがもうすでに何組かのパーティーが思い思いに休息をとっていました。山頂からは眼下に広々とした佐賀平野やその向こうに有明海、そして北には玄界灘が見渡せる大展望が売りとのことでしたが今日はあいにくの天気で残念な山行となりました。小休止、写真撮影のあと来た道を戻り雨山（996m）経由して天山神社上宮の休憩所で昼食をとり吉野ヶ里の遺跡へと向かいました。

遺跡へは14：00すぎ着。広大な歴史公園で見どころ満載の施設でしたが2時間余りの散策でしたので全体の一部しか廻ることができませんでした。それでも弥生時代の王やそれに使える人たちの竪穴式住居跡、また戦に備えた物見やぐら、村全体を護る環濠や支配者たちを埋葬した墳丘墓などスタッフの説明を受け廻ることができました。弥生期のはるかな昔の人々の生活に少しは思いを馳せることができます。

16：00すぎに吉野ヶ里をあとに小倉へ。
17：40無事到着しました。

残念な天候でしたのでまたの機会、山頂より大展望が楽しめる日に行きたいと思っています。参加者の皆さん、運転の堀内さんたいへんお疲れさまでした。

令和7年11月1日（土） ポレポレ山行 角島
～ダルマギクを訪ねて～

15616 奥田 スマ子

コースタイム

下関北運動公園 8：25→角島牧崎風の公園 10：20→散歩・昼食→角島自然館見学 11：45→角島灯台 12：30→道の駅北浦街道豊北 13：20/13：45解散

ダルマギクと聞いて、達磨さんの様な花びらを想像した私。その名前の面白さに惹かれて角島へ行つてきました。

集合場所の下関北運動公園を二台の車に分乗して出発。1時間程で道の駅北浦街道豊北に到着しました。そして、休憩後に展望場所の海士ヶ瀬公園へ移動。この場所からは角島へと渡る橋がよく見えました。テレビ CM にも登場する立派な橋。角島大橋は青い海に映え、うっとりするような美しさでした。私たちはしばらくその景色を眺めてから橋を渡り角島へと向かいました。今年は暑い日が続きました。はたしてこの時期にダルマギクは咲いているのだろうか。

角島大橋から目的地までは車で15分程の距離でした。ダルマギクの自生地である牧崎風の公園は日本海に突き出た岬。風が吹き海には白い波が立つ。口

ープが低く張られた遊歩道を行くと花がありました。ツワブキはつぼみを付け、黄色いホソバワダンは花盛り。そのなかに岩場に張り付くようにダルマギクが咲いていました。薄青紫の可憐な花。名前の由来は丸い葉からきて



ダルマギク（写真 太郎良嘉親）

いると教えていただきました。軟毛に覆われ、やや厚みがある。その葉の重なりようは多肉植物のようでした。この地を訪れたことがある同行者から「以前はびっしり生えていたのに」との言葉。ダルマギクはすいぶん減少したようでした。後世へこの豊かな自然を残せるよう、ロープで規制された中には立ち入らぬようにと、花々を愛で散策を楽しみました。

昼食後は角島灯台などを観光。イベントも重なり大勢の人で賑わっていました。立派な橋と道路が出来て観光客が増えた一方で、「今は地元の人がダルマギクを補植している」と聞きました。自然環境への影響はあるのだろうか。また機会があればダルマギクの咲く頃、角島を訪れてみたいと思います。

参加者の皆さん、大変お世話になりました。



角島にて（写真 太郎良嘉親）

参加者 9人：原広美（CL） 板倉健一 丹下治 丹下香代子（SL） 縄田正芳 今田智恵 奥田スマ子 中畠智子 太郎良嘉親

令和7年8月 個人山行 ヨセミテ
サボテンの花咲いてる 砂と岩の西部♪ 夜空に星がひかり 狼なく西部♪



はじめに 14476 武永 計介

HC 山歩・JAC 北九州・長野県岳連の会員が共同で、ヨセミテ山行の検討を始めて半年。沢山の会議・予約練習と訓練を重ねて素晴らしい思い出になりました。ヨセミテには20年前の出掛け、今回も大自然に包まれた異次元空間に、仲間と再度浸れただことに感謝します。

何事も思い続ければ叶うもので、海外登山の経験が無い&アメリカでテント泊&クマが怖い、レンタカーの運転大丈夫など、沢山の意見は有りましたが、武永の「ダイジョウブ。ダイジョウブ」に押されて、終わってみれば全員無事に成し遂げました。

ヨセミテはアメリカを代表する国立公園 ロッククライミングの聖地

- ハーフドーム登頂
- アメリカの原野でキャンプ泊
- 毎日晴天、乾いた空気
- アメリカクロクマが500頭生息と言われている（クマ撃退スプレー禁止）

今回は幸運にも、♪ある日、森の中、クマさんに出会った♪

- リス、シカなどは常に見られ、ほとんどサファリパーク園内
- グレージャーポイント、タフポイントを訪れた
- 3日目は一味違う、ダイオガロード
- サンフラン시스コ観光

もう、書ききれないほどすばらしい

今回の藤井さん町元さんが中心となり

- ハーフドーム・キャンプ場予約の全世界争奪戦に勝利しました
- 素晴らしいホテルを安価に予約

健ちゃんの連日レンタカー運転

坂田さんの為替レート、手数料など難しい会計処理

遊び慣れた我が家奥さんの、食料計画と調理器具調達

かかった費用は市価の1/4で、感動は100倍
こんな素晴らしい海外登山。次はオーストラリアや香港、済州島など、話が出ていて、皆さん自主山行で計画訓練を重ねて、取組んで頂ければ嬉しいです。

最後に、この計画に関わった全ての人と、留守宅で対応頂いた各位にお礼申し上げます。

8月22日(金) 3日目 天候：晴れ (30°C)

15891 藤井 信義

アメリカ・カリフォルニア州にあるヨセミテ国立公園。その象徴とも言える「ハーフドーム」。

ついに登る日が来た。登りたい想いだけでは登れない山。そこには抽選という大きな壁があり当選率10~20%のなか選ばれた者こそが登る事を許される。

早朝4時まだ星が瞬く中キャンプ場を出発。既に朝食は全員で済ませてある。45分程車で走りスタート地点の Curry Village に到着。

5時登山開始。ヘッドランプを燈したまま森林の中を歩く。すると背後から数名のハイカーが早足で追い抜いていく。格好はTシャツと短パンの軽装姿。

さすがアメリカである。軽く行動食を摂りながら歩を進め、夜が明ける頃にはミストトレインとジョンミューアトレインの分岐点に差し掛かる。ここには水分補給場所とトイレが設置されている。この分岐からはマーセード川を挟んでどちらからでも「ハーフドーム」へ続いている。

行きはジョンミューアトレインを選択。崖に作られたジグザグの道を何度も折り返しながら登り、クラークポイントに到着。ここからはリバティーキャップが見えた。

そのまま進むとヴァーナル滝・ネヴァダ滝を見ることができた。連日続く猛暑によりこの滝に



ハーフドームを登る
(写真 武永計介)



ハーフドーム山頂 (写真 武永計介)

SAヨセミテ遠征報告【8月23日（土）】

17126 大山 時彦

（前置き）

はじめに、今回の遠征は本来、北九州支部の竹本夫妻にお誘いがあったものを私に譲っていただいた経緯から参加の皆様に失礼なき対応をと思っていました。ところが事前練習のキャンプ等、私の事情で参加できず、不安に思っていたところ、武永夫妻がご自宅にまで呼んでいただき、個人指導していただいたのは、有難く大変助かりました。出発当日に空港でお会いするのが初めての方々もおられましたが皆さん、気持ちよく話かけていただき心が安堵しました。ただ、私が71歳で最年長なのだと自覚するものでした。

さて、韓国仁川を経由して、あこがれのアメリカ大陸上陸、広大な大地が全てでかい！ 人、車、高速道路も片道5車線には驚き、高速料金無料。一方で長い高速なのにSA・PAもなく、自動販売機やコンビニもなしは日本とまったく違い、ああ、これがアメリカなのだと思うものでした。大きなJeepレンタカーもゆったりとゴージャスなもので、大満足でした。車中では、広大な風景を見て、まるで洋画の世界に入り込んだ気分でした。

そこで、ふつと思ったのは、先人達はこの大国に戦いを挑んだものだと、現世で考えると小さな島国の愚かさしかなく、平和の有難さを噛みしめるものでした。

8月23日（土）

前日のハーフドームも6名全員登頂でき、今朝はゆっくりと計画表では8時出発予定でしたが、気温上昇と途中の高速混雑状況もふまえ、4時起きに変更でした。ほぼ毎日4時起きで慣れてきたせいか、苦にもならず、私はハーフドーム下山時に少し脱水と腹痛でしたが朝には回復して、一番に起きたと思ったら、武永夫妻はもう朝食準備にとりかかられており感謝で頭が下がる思いました。暗い中テント撤収して5時過ぎに出発できたのは、アメリカ生活に慣れてきたのかとの想いでした。出発が早かった分、車も少なく、武永さん、吉



ハーフドームを背景に （写真 武永計介）

下山もハーネスを使いながら一歩一歩慎重に金属ケーブルを下降。「ハーフドーム」を背に、来た道を折り返す。この山が「THE NORTH FACE」のロゴマークかと振り返る。

帰りのルートはミストトレイルを選択しジョンミューアトレイルとの分岐点で水分補給を行った後駐車場へ向かった。

往復 25Km、タイム 14 時間、水分 2.5ℓ も飲み干した長丁場ではあったが、皆様の協力のお陰で全員無事に登山できた事に感謝します。

ジャイアントセコイア
(写真 武永計介)

原さんがお疲れのところ全て運転していただき私は外観風景にマッチしたラジオ音楽で素敵なドライブでした。

途中、約2時間位で「マリポサグローブ」に着き、森林の中を散策1時間半のコースでしたが、最初が下りで折り返しが全て登りと汗びっしょりの散策でした。日本にも屋久島縄文杉や英彦山鬼杉とあります、8人全員が木の空洞に入るのは、これもアメリカの大きさでした。また、途中々で森と湖に囲まれた写真やポスター等でしか見たことないような素敵な場所で休憩をとりながら、一路霧の都「サンフランシスコ」へ向かいました。

土曜日でしたが、心配していた渋滞もなく、うっすらと霧に囲まれたサンフランシスコ市内に入りました。割と、すんなりサンフランシスコ市内にたどり着いたなと思った矢先、停車中の他車とサイドミラーが接触のアクシデント、車内に緊張がはしりました。ただ、違ったのは武永夫妻で、「あくまで想定内」の出来事のように、現場状況確認後、保険会社、警察へ連絡、言葉が繋がりにくい時は、もよりの警察署へ走らせる等、役割分担された指示で皆さんも落ち着いた行動の対応でした。相手車が路上の違法駐車でもあり、警察指示の張り紙をして、その場は落着でした。

ホテル着後は、皆緊張もあった後なのか、空腹状態で市内繁華街で夕食に出向き、おしゃれなレストランで皆さんはパンチャウダーでしたが私は以前食して今一でしたので、レジに並んでいた黒人青年がthis good！と指さしたメニューを選んで食べましたが何がgoodなのかな？の感じでした。食後に別のカニ専門店に行くということで、お腹いっぱいと思いきや皆でセア注文して薄味でとても美味しかったです。繁華街をぶらつきながらホテルへ向かい、23日（土）の濃くて長い1日（ドライブ、観光、アクシデント、外食）は終わりました。長時間運転のお二人をはじめ、皆さんお元気で素敵なおホテルで熟睡となりました。

「ヨセミテ・ハーフドーム：感想文」 15710 町元 里香

長い旅から帰ってきました。充実感でいっぱいです。

今年2月にヨセミテへの旅が案内され、参加を決意しました。そこから、本当にみんなの力を借りた嬉しい旅の始まりです。航空券の予約と購入を済ませ、3月には抽選で決まるハーフドーム登頂の申請を行いました。4月に抽選の結果が出て、全員でハーフドームに登頂できることが決まり、5月には世界を相手に、ヨセミテ国立公園内のキャンプ場予約の戦

いにも勝ちました（さすがにヨセミテバレー内のキャンプ場は敗退）。

5月末のヨセミテでのキャンプを想定した六畳岩での予行演習は、大雨のため中止になるところでしたが、武永さんに急遽予約して頂いた千坊川砂防公園キャンプ場で、もしもの雨と熊にも備えての練習ができ、ぐっとイメージが湧いてきました。それからは、もう時間があればマンテカで宿泊するホテルやサンフランシスコの過ごし易いホテルの情報を調べたりして、心はずっと、まだ見ぬ土地での旅の中にいるような感覚に浸っていました。そして、頭の中での旅は更にどんどん膨らみます。ハーフドームの登頂、ヨセミテでのキャンプなど、外せない条件はなんとかクリアできました。残りはそれ以外の行動計画。オプションプランも幾つか考えて、もしもの時に備えます。タイオガロード、マリポサ、行きたい所が目白押しです。7月には各自でESTAを申請し、運転者は国際免許を取得しました。出発月の8月にはリーダーの藤井さんに計画書を作成して頂き、キャンプの予行演習の甲斐もあり持参品や荷物の準備が整いました。

8月20日、ドキドキの現実の旅が始まりました。英語が得意ではない私は何度も挫けそうになりましたが、みなさんがいつも近くに居てくださって百人力でしたし、一人では到底できないような旅を最後まで元気百倍で愉しめました。オブザーバーの武永さんの合言葉「ハプニングは最高の思い出。ヨセミテは思い出と絆が沢山」を胸に刻んで、無事に帰つくることができました。

本当にみなさん有難うございました。

「ヨセミテ・ハーフドーム：感想文」 15892 藤井 淳子

帰国して10日。まだ頻繁にアメリカ滞在中の光景が色鮮やかに頭に浮かんでくる。どこを切り取っても、絵画の様に美しいヨセミテの風景、サンフランシスコの可愛い街並み、皆のキラキラ笑顔・etc.身体は日常生活に戻っているけど、私の頭の中はまだ旅行中。



バナナのバーベキュー（写真 武永計介）

半年以上前に始まった様々な準備。キャンプ場予約のリハーサルでは、あっという間に予約が埋まっていくのを目の当たりにしてびっくり。でもなんと！当選率 20%以下というハーフドーム登山許可とキャンプ場も見事GETして、いざ出発。

到着したヨセミテの風景は動画や写真で見るより、数倍素晴らしかった！絶景を眺めながらトレッキングして、木陰や湖畔でのんびりお茶したり、読書をしてウトウトお昼寝・・何日いても飽きないだろうなーと楽しい想像が膨らむ。



乾杯！（写真 武永計介）

期待しない方がいいと言われていた食事ですが、どれも美味しかったです。お肉、野菜、チーズ、初体験の「焼きマシュマロ」はお饅頭かと思うくらい大きなマシュマロを串刺しにして焚火でとろ~り。ハンバーガー、クラムチャウダー、カニ、エビ・・。でもやっぱり今回のNO1は、武永夫妻がハーフドーム下山に合わせて準備してくれていた冷えたビール！暑さでお湯になった残り少ない水をチビチビ飲みながら、冷たい飲み物を一気飲みする妄想ばか



タイオガ湖（写真 武永計介）

りして歩いていたので、心身に沁みわたりました～。感謝、感激の忘れられない味です。素晴らしかった数日を言葉で表現するのは難しいけれど、この旅行中のステキな脳内映像はずっと記憶に鮮明に残り続けると思います♪

最後に、準備からずっと指導、アドバイス、サポートしていただいた武永さんはじめ、メンバーの皆様、本当に色々とお世話になりました。前向きで優しいメンバーの方々のおかげで、数倍楽しい旅になりました。楽しい時間と貴重な体験をご一緒させていただき、ありがとうございました。

海外もまだ行きたいところが沢山あって、夢は広がるばかり。今回の経験を少しでも活かして次へ繋げられるといいなと思います。皆様、本当にありがとうございました！

JAC 北九だよりの原稿募集

- 1 テーマ
山に関すること
(例) 個人山行記録、自然、歴史・文化など
- 2 提出形式 Word (写真、図表等は JPEG)
(事前にお問い合わせください)
- 3 締め切り日
発行月の前々月末
- 4 提出先
竹本加代子
✉ takemoto.masayuki@white.plala.or.jp
※不明な点はお問い合わせください

赤い木の実
(表紙写真 橋川潤)
ダイセンキャラボク
コケモモ
マンリョウ
センリョウ
ハクサンボク
ゴゼンタチバナ

令和7年7月25日（金）個人山行
～念願のジャンダルムを踏破！～
17512 安倍 功

コースタイム：西穂山荘 3:00→ピラミットピーク 4:34→西穂高岳 5:30→間ノ岳 7:16→天狗ノ頭 8:49→ ジャンダルム 11:15→奥穂高岳 13:09→穂高山荘 14:33

岳沢小屋から前穂高岳、奥穂高岳と登って、奥穂高岳山頂で時間的に余裕があったので、ちょっとジャンダルムに寄り道しようと安易な考えで出発し、両側が鋭く切れ落ちた馬の背で、ルートが想像できず、「こんなところ行けるか！」と恐怖におののき引き返した2023年の夏。

それから、大崩、大キレット、北九州支部入会など、少しずつ経験を積み、スキルを磨き、2年後のこの夏にジャンダルムを踏破しました。

当日は、北九州支部/事務局長の清家さんから、午後から天気が崩れるとの情報をいただき、計画より1時間早い、夜明け前の3時に、ヘッドライトを装着し、西穂山荘を出発。ピラミットピーク前には明るくなつて、快晴の中、眺望を楽しみながら西穂高岳到着。これからが一般登山道ではない危険なルート

で、急に登山道の雰囲気が変わったように感じられた。急な岩場のアップダウン、長い鎖場、道標が少なく、途中、道を間違えたため危険で滑り落ちそうなガレ場を進むことになり、慎重にゆっくりと切り抜けた。逆層スラブは天

気が良かつた

せいか滑ることなく難なく進み、天狗ノ頭まで到達。

メンバーの疲れが見え始めたので、天狗のコルの小屋跡地で休憩。近づいてきたジャンダルム。しかし、またもや道を間違え、今度はこれ以上進むのは危険と判断し、元の道に引き返したため30分程度ロス。でも道間違えのおかげで雷鳥と遭遇。若いオスの雷鳥で、私は初めての出会いで感動し、うれしく



西穂高山頂（安倍功）

て雷鳥に先導されるがまま誤った道をどんどん進んでしまい、ちょっと反省。この頃から雲行きが怪しくなり、曇りの中、念願のジャンダルム登頂！ 口バの耳を過ぎたあたりから雨が降り始め、レインウェアを装着。ラッキーなことに、馬の背手前で一旦雨がやみ岩の滑りもなく、YouTubeで学習したルートを慎重にゆっくりと進み馬の背を登りきりほっと一息。



ジャンダルム登頂中（写真 安倍功）



ジャンダルム登頂！ （写真 安倍功）

そして奥穂高岳に到着。奥穂高岳山頂は残念ながら曇り空のため眺望が見られず。山頂でゆっくりと過ごし、穂高山荘へと歩き始めた。だんだん雲行きが怪しくなり土砂降りとなり、そして雹（直径5ミリありました）に変わり雹で身体をガンガン叩かれながら、真夏なのに手先の冷たさを感じつつ山荘に到着。生ビールはなかった、缶ビールで乾杯！ 最高のビールでした。

参加者4人：安倍功 田中孝明 大谷陽子 友人

令和7年6月・9月 個人山行 韓国の智異山と中国の靈峰華山
～今年もアジアの名峰をブライアリ山旅～

17022 折野 道法

去年はベトナムのファンシーパン 3160m とハロン湾にブライアリ旅して、さあ～今年は何処へ行こうかと思っていましたが、韓流ドラマ“チリサン～君へのシグナル”で人気の韓国晋州の智異山とキングダムで人気の中中国悠久の都長安～現“西安”の靈峰華山に登って来ましたのでご報告致します。

＜韓国第2の高峰～智異山 1915m と晋州歴史探訪＞

日程：2025.6/27(金)～6/29(日) 2泊3日

梅雨の終わりに計画してもなかなか実現しなかった韓国第2の高峰（智異山 1915m）にLCCが安くなったのもありやっと登って来ました。

福岡から釜山金海APに入国し、高速バスで慶尚南道の晋州に移動、初日は文禄の役の激戦地になった晋州城を巡りました。第二次晋州城攻防戦では豊臣秀吉軍10万に対して、韓国軍5万と一般民6万が惨殺された地は凄惨な戦の地でした。



文禄の役の激戦地になった晋州城（写真 折野道法）

翌日、晋州BTから中山里BTに移動して、中山里登山口400mからビジターセンターのある自然学習院登山口600mに登って、蒸暑い中をトレッキング開始、良く整備された階段の急登を登りロータリー待機所から刀岩、法界寺で水補給し、智異山山頂の



韓国第2の高峰～智異山 1915m（写真 折野道法）

天王峰 1915m 登頂。チャントモク山荘から無事に下山できました。

古くより北朝鮮の金剛山、濟州島の漢拏山と合わせて三神山として崇められ、空の柱を意味する天王峰（チョナンボン/1915m）を始め、広大な山域の中に連なる峰々の数は百にも及ぶ智異山は、1967年に韓国で初めて国立公園に指定され”智のある異人の山”とも言われ、世俗を捨てた隠者の気分に浸れました。

歩行時間 11 時間 距離 13.1 キロメートル
累積標高 1580m

＜中国悠久の都長安の靈峰華山と兵馬俑歴史探訪＞

日程：2025.9/20(土)～9/23(火)

Netflix で沼ったキングダムで気になっていた悠久の秦の都“長安”（現西安）へ福岡空港からLCC 直行便が飛んだので、秦始皇帝陵の兵馬俑と中国五名山のひとつ華山の“世界一危険なハイキング道”を巡って来ました。

西安に着いて、先ずは世界遺産の秦始皇帝陵博物館の兵馬俑1号坑、2号、3号を見学し、華清宮、長恨歌/大唐女皇を巡りました。始皇帝を守る2200年前の最強地下軍隊に圧倒され、観光客の多さにも押しつぶされそうでした。翌日は中国五名山のひとつに数えられる華山 “华山 Huàshān” の「世界一危険なハイキング道」を巡りました。華山は、最高峰の南峰 2154m 北峰 1614m には三特索道 中峰 2037m 東峰 2096m 西峰 2082m の太華索道は 4211m で世界最長のロープウェイです。



世界遺産の秦始皇帝陵博物館
(写真 折野道法)



中国五名山のひとつ華山南峰 2154m (写真 折野道法)

今回の華山のルートはお天気が今一つでしたから太華索道で西峰から最高峰の南峰、東峰、中峰を廻り太華索道/西峰ケーブルカーで下山しました。

- ・距離 13.1 キロメートル 累積標高 2205 メートル
行動時間 10 時間

令和7年9月9日（火）～13日（土）個人山行 蝶ヶ岳登山
～穂高連峰の大パノラマ～

16382 横山 秀司

9日 17:30 新門司港発の阪九フェリーで大阪へ。
10日 6:30 泉大津港着、レンタカーで一路、平湯温泉（あかんだな駐車場）へ。バスに乗り換え、13時に上高地着。横尾まで約3時間、梓川の谷沿いを歩く。途中、明神池から雨あしが強くなり、雨具を着て歩き、横尾には16:20に到着。

11日（木）7:00 に横尾出発し、雨の中蝶ヶ岳までの登山を開始した。11:00 に森林限界を

越えて稜線（尾根分岐）に出た。雨が止んだので、蝶槍まで足を伸ばすことにした。蝶ヶ岳ヒュッテで昼食をとった後、視界が開けてきたので瞑想の丘と称する展望場所で雲の流れで見え隠れする穂高の峰々を、晴天時の大パノラマとはならなかつたが、心ゆくまで眺め続けた。

12日（金）は、6:30 にヒュッテから徳沢に向けて下山した。徳沢に 11:00、小雨降る上高地には 13:10 到着。すぐにバスに乗り、平湯温泉へ。日帰り温泉施設「ひらゆの森」で入浴して 3 日間の汗を流した。高山の宿舎（カーライン）に宿泊し、翌日は高山から走り続け、小倉には 16:00 に到着し、解散した。長距離運転していただいた竹本正幸さん、太郎良嘉親さんにお礼を申し上げます。



蝶槍の頂上にて (写真 横山秀治)

上高地でのアケボノシュスラン
(写真 竹本加代子)

参加者 6 人：竹本正幸 竹本加代子 奥田スマ子 中畠智子 横山秀司 太郎良嘉親



<蝶ヶ岳に始まり蝶ヶ岳で終わった私のアルプス登山>

16382 横山 秀司

1964（昭和39）7月、高校1年生であった私は、学校が募集した蝶ヶ岳登山に参加した。横浜からの行程は覚えていないが、徳沢園に2泊し、約80人の集団で、徳沢から蝶ヶ岳への日帰り登山をした。その時、蝶ヶ岳からの槍穂高の大パノラマを目にして、アルプスの景観の素晴らしさに感動した。高校3年の夏休みには白馬村梅池の学生村に1週間滞在し、その最終日に白馬大池・乗鞍岳までの登山をした。アルプスに魅了された私は、大学生になってから毎年夏にアルプスに登ることにし、白馬岳、北穂・奥穂高、鹿島槍ヶ岳～五竜岳～唐松岳、槍ヶ岳に登った。大学院修士課程では地理学専攻の仲間とともに、アルプスの地形や植生を調べる目的で、立山三山、剣岳、雲ノ平から鶯羽岳～双六岳、鳳凰三山、仙丈ヶ岳、木曽駒ヶ岳に登った。

その後2年間、ドイツとオーストリアに留学して山地の森林限界に関する研究を行うことになった。アルプスの谷間に位置するインスブルクに半年間滞在し、オーストリアの北部アルプスと中部



1964年7月蝶ヶ岳にて 槍ヶ岳をバックに
学生帽をかぶった級友と（写真 横山秀治）

アルプスの森林限界が、どのような景観的相違があるかについて、景観生態学的観点から調査をした。調査のかたわら、モンブラン、マッターホルン、アイガー、ユングフラウなどの峰々、アルプスで草を食む牛や羊たち、流れ下る白い氷河を眺めながらトレッキングを楽しみ、本場アルプスの景観の素晴らしさに感動した。

留学を終え、大学院博士課程に入り、北アルプスの南北で森林限界景観にどのような相違が見ら

れるかを研究テーマとした。そのため、北から朝日岳、太郎山、屏風の頭、蝶ヶ岳の4箇所を調査対象とした。3年間、各フィールドの地形・地質、植生など景観生態学的な調査を行うため、何度も登った。そして、オーストリアと北アルプスの調査結果をまとめ、「山地における森林限界の景観生態学的研究」と題した博士論文を提出した。

1992年に居を横浜から九州に移してからは、アルプスは遠い存在となった。2005年秋に蝶ヶ岳に登ったのを最後に、体力の不安もありアルプス登山を半ばあきらめていたが、学生時代に登れなかつた燕岳への登山の思いがあった。ところが昨年、北九州支部の仲間に誘われ、表銀座コースから槍ヶ岳を目指すことになった。その際、燕岳をコースに入れてもらい、念願の登頂を果たせた。しかし登山中に腰が痛みだし、大天井岳から槍ヶ岳山荘までは何とか到達したものの、最終日の槍沢の下りで腰痛が激しくなり、槍沢ロッジまでたどり着くのがようやくという状態であった。同行したメンバーには大変な迷惑をかけてしまった。下山後、整形外科でリハビリを行い、近場の登山を再開し、腰痛はなくなった。今年になって、再びアルプス登山の誘いを受け、蝶ヶ岳に登ることになった。事前の訓練登山もこなし、体力には問題がないと思っていたし、2005年に登った時の楽なイメージもあった。しかし、9月11日に横尾から登り始め、森林限界に近づいたあたりから、太ももに痙攣が走るようになった。ツムラ68を飲



私を支えてくれたメンバーと蝶ヶ岳山頂にて
(写真 横山秀治 2025年9月12日)

んで、痛みを抑えながら歩みを続けたが、もはやアルプス登山は限界に来ていることを悟り、アルプス登山はこれを最後にしようと心に決めた。蝶槍でメンバーと記念写真を撮った後、二重山稜の尾根道を歩きながら、1人で、仲間と、また恩師と歩き調査した日々がよみがえり、目頭が熱くなり、一筋の涙が頬を濡らした。そして、足のはこびを押さえて、もう二度と見ることがないこの景観を一つ一つ脳裏に刻み込んだ。瞑想の丘からは、流れる雲の間に現れた穂高の峰々に別れを告げる思いで眺め続けた。

私の人生の道筋をつけてくれた蝶ヶ岳。それから62年間、私は山と関わりながら人生を送ってきたが、1964年に蝶ヶ岳で始まったアルプス山行を、2025年の蝶ヶ岳で終わることにした。



特徴的な蝶ヶ岳稜線の二重山稜

（写真 横山秀治 2025年9月11日）

私の最後のアルプス登山を支えてくれた竹本正幸さん、竹本加代子さん、奥田スマ子さん、中畠智子さん、太郎良嘉親さん、本当にありがとうございました。

令和7年9月13日（土）個人山行
～戸隠連峰・高妻山（2353m）～

17433 安藤 匡

コースタイム 戸隠キャンプ場バス停 6:10→弥勒尾根分岐 6:35→六弥勒 8:30→七葉師 8:35/8:40→山頂 10:15/10:30→六弥勒 12:05→五地蔵山 12:10/12:15→不動 12:55→氷清水 13:25→弥勒尾根分岐 14:50→戸隠キャンプ場 14:55/15:30→出発点帰着 15:35

今年の夏山は、小屋予約や雨、仕事で不調が続き、夏最後に滑り込みで行けたのが高妻山でした。

金曜23時、名古屋発で3時に登山者駐車場に到着。3時間仮眠するうちに雨はやみましたが、すぐにも降り出しそうな空。樹林帯は柄の実だらけで熊のエリアに入ったことを実感してザックのポケットを探るも、入れたつもりの熊鈴がない！止む無く自

安100m進むごとに「ヤッホー」を連呼して進みました。

登山道ではリンドウやコゴメグサ、シラタマノキ、ツリフネソウが楽しめましたが、尾根に出てからもガスが晴れることはなく、本来なら見えるはずの北



オヤマボクチ（写真 安藤匡）

アルプスの峰々や北信五岳も見えずじまい。濡れた岩肌で滑滝や帶岩などの鎖場は冷や冷やしながら下山しました。

下山口の戸隠キャンプ場内にある手打蕎麦屋「岳」、神告げ温泉湯行館に寄って、翌日に戸隠神社へ参拝。21時過ぎ小倉に帰着と丸二日の弾丸山行でした。

メンバー：安藤匡・友人K氏（東海支部員）



濡れた一枚岩の滑滝左岸を下る（写真 安藤匡）

令和7年7月22日（火）～28日（月） 個人山行
～忘れられない薬師岳から水晶岳の縦走～

北九 542 綱川 和幸

折立から薬師岳、黒部五郎岳、雲ノ平、水晶岳をめぐり、再び折立へ戻る一週間ほどの山行を計画しました。もし時間に余裕があれば、戸隠神社にも立ち寄るつもりで出発しました。

7月22日夕方に車で出発し、23日の昼頃に折立の駐車場に到着。

翌24日の早朝5時ごろ、薬師峠キャンプ場を目指して歩き始めました。登山者は思ったよりも多く、熊が怖い自分には心強い状況でした。途中スーツとネクタイに革靴、サラリーマンの鞄という正装の出で立ちの登山者に出会い、思わず写真を撮っていました。薬師峠でテントを設営し、薬師岳へ登頂。天候に恵まれ、山頂の薬師如来像が光を受けて



スーツのユーチューバーさんと
(写真 綱川和幸)

静かに輝いていました。過去に盗難被害があったと聞き、少し複雑な気持ちになりました。

翌朝5時過ぎにテントを畳み、黒部五郎岳へ向かいました。途中で道を間違えて、右往左往していると、大阪から来たご夫婦と出会い、しばらく一緒にさせていただきました。山頂を越えて黒部五郎小舎へ下る途中、急に雨が降り出し、間に合わ

ず上だけカッパを着てびしょ濡れになりました。登山道は川のようになり、体力を奪われました。小屋に宿泊をお願いしましたが満室で断られ、仕方なくテント場へ。遅れて来た大阪のご夫婦は交渉して泊まれました。

翌日は靴が乾かず気持ち悪かったため、予定を変更して巻き道を通り三俣山荘へ。山荘でケーキセットを注文すると、若い女性が「自信があります」と笑顔で出してくれました。言葉の通り、たいへん美味しかったです。気分が良くなり、そのままここでテント泊することにしました。隣のテントの方も前日の雨で装備を乾かしており、話をしているうちに「鷲羽岳から水晶岳、そして雲ノ平へ向かうルートが良い」と勧めてくれたので、その通りに進むことにしました。

翌朝5時に出発。快晴で、今回の縦走の中でも特に印象的な一日でした。

水晶岳の稜線は空と地の境があいまいになるような明るさで、歩いているだけで気持ちが高ぶりました。下山途中、有名な登山系YouTuberとすれ違い、記念に写真を撮っていただきました。祖父岳付近では、野口五郎小屋から来た6～7人のグループが「今日は高天原山荘を予約しているので行く予定だったが、もう疲れ果てた」と話していました。そこで大阪のご夫婦が話していた「体調が悪くて動けないと言ったら泊まれた」というエピソードを紹介すると、みなさん無事に雲ノ平山荘に泊まれたようです。



大阪夫婦と一緒に (写真 綱川和幸)

雲ノ平山荘に着くと、休憩所で出会った登山者が、餓鬼岳で遭難した話をしてくれました。警察に救助要請したところ「自力で下山してください」と言われ、自力で下りてきたそうです。山荘では二度ほど頭をぶつけ、短い階段では滑って転びましたが、ここから眺める水晶岳の景色は素晴らしい、疲れも吹き飛びました。

翌日、無事に折立へ下山。

行く途中、山陽自動車道で居眠りをしてトンネルの壁に接触し、車の左側を壊していました。折角なのでそのまま山行を続けましたがバックミラーも取れてしまっていて、さすがに今回は戸隠神社行きを諦めて大人しく帰宅しました。

だいぶ痛い思いもしましたが、山で出会った人や景色はどれも忘れないものでした。

令和7年10月11日（土）～13日（月） 個人山行
～伯耆大山のお隣り 甲ヶ山～

コースタイム：川床登山口 6:18→甲ヶ山直登コース分岐 7:28→甲川渡渉 8:25→ゴジラの背 10:20
→甲ヶ山 10:45/10:30→矢筈ヶ山 12:46/13:00→大休避難小屋 13:40/14:11→川床登山口
15:30

<甲ヶ山 登りも下りも岩だらけ>
17031 橋川 潤

10月12日、川床登山口を出発し香取からの道と合流、甲（きのえ）川を渡る。ここから急登の始まり。木の幹をつかみロープに助けられ、沢山咲いていたダイモンジソウに元気をもらい尾根まで登ることができた。しばらく行くと「ゴジラの背」と呼ばれている岩尾根を進む。火山岩が浸食されずに残った痩せ尾根だ。滑りにくい岩なのでひょいひょいとバランスをとりながら歩き、甲ヶ山に到着。あいにく曇っていたが、流れるガスで見え隠れする周囲の山々の幻想的な景色を楽しむことができた。

甲ヶ山からは岩壁を下る道。眺めは良いが常に足元に注意しておかなければならぬ。ダイセンキャラボクやアカミノイヌツゲの赤い実、美味しそうなヤマブドウの実を観察しながら、小矢筈の岩峰を乗り越え矢筈ヶ山にやっとたどり着いた。

そこから登山口まで緩やかな下り道。遅れがちな私を見捨てなかつた皆さんありがとうございました。



ダイモンジソウ
(写真 竹本加代子)

と刀剣館（出雲の國たら風土記～鉄づくり千年が生んだ物語）に立ち寄り、いにしえのたら操業の一端を体験してきた。

天候により山行が中止になることもあるが、山では味わえない良い機会を与えてもらっていることに感謝します。

<山岳会らしい山行だった>
17433 安藤 匡

鳥ヶ山と書いてカラスガセン…初めて耳にして「それどこ？」と思い、YouTubeで調べると、そぞり立つ岩峰。目にしてすぐに登りました。それにしても伯耆富士・大山は遠いです。結局は天気起因で、鳥ヶ山とは大山を挟んで反対側の甲ヶ山一座のみになりましたが、ダイモンジソウや大きなキノコの群落、ゴジラの背と鳥ヶ山に負けず劣らずの矢筈ヶ山も堪能し山岳会らしい山行だったと思います。

反省点、地図と動画サイトで予習はしていたものの、分岐を見落として谷筋にみなさんをミスリードしてしまったこと今後の糧に…。

とは言え、鏡ヶ成キャンプ場の快適さ、下山後、急遽の宿泊となった安木市緑の村の体育館、翌日のたら製鉄の博物館見物など、楽しい三日間ありがとうございました。



鏡ヶ成キャンプ場 (写真 安藤匡)

<大山山系の一つ甲ヶ山(1338m)
矢筈ヶ山(1358m)>
14852 竹本 正幸

大山の北東に位置する甲ヶ山は初めてであったが岩山であることは承知していた。実際行ってみると、

2, 3年前から甲ヶ山から矢筈ヶ山のゴジラの背に行きたくて何度か計画をたてたが天気に恵まれず、1度目は中止、2度目は蒜山に変更。今年こそはと10月の紅葉の良い時期に月例山行で計画した。テント泊を計画し1日目は鳥ヶ山に登ることにした。しかし天気には恵まれず、1日目は午後から雨予報、2日目は朝から雨予報。どちらも岩場歩きがあるのでリーダー、サブリーダーの判断で安全第一を選び中止とした。

1日目の午前中の天気は持ちそうだったので個人山行で甲ヶ山から矢筈ヶ山を周回する計画をたてた。無事下山まで天気は崩れず、ゴジラの背を堪能できた。急遽、近場の宿を予約し2日目は奥出雲たら

甲川を渡った後は壁に近い急な沢を稜線まで突き上げる。後に続くため落石に注意しながらの登りは、緊張の連続であった。

稜線に出ると甲ヶ山までは「ゴジラの背」と言われるほど岩の隆起が続く。途中ヤマブドウを見つけるにしたときは、ホット一息、そのうち甲ヶ山山頂に着く。昼食後は急傾斜の岩場を慎重に下る、岩場で滑落すると助からない。さらに矢筈ヶ山を登りました岩場を下る。全員が岩場を抜け樹林帯まで降りた時は、やっと胸を撫で下ろすことができた。大休憩からは中国自然歩道の石畳の道をルンルン気分で下る。

〈想定外の山容と赤い実、黒い実、瑠璃色の実に歓喜〉
14853 竹本 加代子

台風3号そして前線の南下でまたもや甲ヶ山は中止かと危ぶまれた。前日まで天気予報とにらめっこ。12日は何とか持ちこたえよう、鳥ヶ山は諦めよう。ゴジラの背への直登コースを登る。中々の急登で難易度は高い。何とか尾根に出てゴジラの背を楽しんで甲ヶ山登頂。甲ヶ山の岩場の激下りも振り向ければ

岩壁がそそり立っている。想定外の山容であった。

秋ならではのトチバニンジンの艶やかな姿やダイセンキャラボクの赤い実、アカミノイヌツゲの赤い実、サワフタギの瑠璃色の実、イヌツゲの黒い実、やがて雪の下で春を待つでしょう。秋の甲ヶ山最高でした。



サワフタギ
(写真 橋川潤)

〈鳥取県では山をどうして「せん」と読むのか?〉
16601 藤原 玲子

ダイセン、カブトガセン、ヤハズガセンの名前の読み方がかっこ良いので、なぜ「山」を「セン」と読むのか不思議で調べてみました。

大山は、古くから仏教の信仰の対象とされており、仏教用語に用いられ中国から伝わった「吳音」でセンの読みが定着した。鳥取県ではセンと読む山が30座あるそうです。

川床から一向平コースは一番険しいルートで急坂も有りましたが、メインの「ゴジラの背」を見たくて参加しました。写真で見たゴジラの背は、ゴツゴツした岩。予想通りで緊張しましたが、ワクワク感も有り楽しかったです。下りも1ヶ所長いロープの急な下りがあり、確認したくて振り返って見てみる

参加者7人：竹本正幸 竹本加代子 町元里香 藤原玲子 橋川潤 大山時彦 安藤匡

とやはり凄い。矢筈ヶ山からの下りも、柱状節理の石が横に長く、足を置くのに幅が狭くお尻を付けて慎重に下りました。

鳥ヶ山には行けませんでしたが、甲ヶ山は岩場で緊張感のある楽しい山でした。

観光の「たらと刀剣館」では、日本刀を初めて触り、日本刀の作り方も知ることが出来ました。楽しい計画ありがとうございました。

〈オオヤマが「奥大山甲ヶ山」ゴジラの背を登る〉
17126 大山 時彦

12日の甲ヶ山は天気が後半から崩れるとの予報でしたので、早朝4時に起きテント撤収等も早々に済ませ、6:10には、川床～一向平コース登山口をスタートしました。

登りは岩場や急登と難関コースで、8:20羽田井休息後はハード直登が続き、登り終わるとちょうど青空と綺麗な景色も見え、改めてよい山の印象でしたが、前方に名物「ゴジラの背」を見たときは、ビビって、早々にヘルメットをかぶり、恐る恐るゴジラの背を緊張して渡りました。「甲ヶ山頂上 1338



甲ヶ山頂上 (写真 大山時彦)

」は達成感ある山でしたが、その後、下り側を見ると直岩の下山道で岩場は息が止まるような緊張の連続でした。ところがこれで終わりではなく、次に「矢筈ヶ山 1354 」の登りがあり、奥大山の脅威を味わうものでした。（ちょっと由布岳、岩場周回を思い出しました。）その後は順調に下り 15:30には駐車場に着き、天気は回復方向ではなく、大山温泉入浴後、「上の台緑の村 交流センター」に予約でき宿泊。翌日は奥出雲観光で「たらと刀剣館」等観光も楽しい山行で、また、今回残った「鳥ヶ山周回」にも挑戦したいと思っています。

最後に安藤CLや町元SLはじめ詳細計画、準備等で皆さんにお世話になりました。

令和7年10月27日（月）～31日（金） 個人山行 熊野古道（小辺路）
～約70キロを歩いて歩いた熊野古道～

高野山と熊野本宮を最短距離で結ぶ70キロ超えの街道を熊野古道小辺路（こへち）といいます。途中、水ヶ峰、伯母子岳、三浦峠、果無峠と、1000㍍級の山越えがあり、最短ルートといえどもかなり険しい山岳道です。江戸時代中期の『三熊野道中日記』には、摂津国の造酒屋、八尾八左衛門が三泊四日で高野山から熊野本宮に至ったと記されています。

我々は和歌山熊野古道小辺路コース約70キロ、基本所用時間約30時間を3泊4日、6人で完歩しました。小辺路コースを4区間に分け担当割りを事前に決め、各自コース案内役として記録と感想を記しました。

参加者6人：竹本正幸 繩手修 町元里香 大山時彦 藤原玲子 竹本加代子

1日目 水ヶ峰越「高野山～大股(おおまた)コース」
15174 繩手 修

コースタイム：10月26日全国支部懇（関西支部）参加後→27日大阪ガーデンパレス出発 4:25→橋本駅駐車場 6:30→高野花鉄道「高野山駅」着 7:40→金剛三昧院（こんごうざんまいいん）の道標 8:37→熊野参詣道小辺路（こへち）の道標 9:00→薄峠（うすとうげ） 9:40→食事 11:30→水ヶ峰（集落跡） 12:30→平辻（たいらつじ） 13:50→野迫川村・大股（登山口） 14:45→民宿かわらび荘 15:00 歩行 16.8キロ 所要時間6時間30分

3泊4日と行程が長いので1人1日ガイドをするとの事で私は10月27日（月）縦走初日のガイドを任せられました。が、私には荷が重すぎ（水ヶ峰越「高野山～大股」）の拡大したガイドマップだけの配布になりました。

高野山に行く話しをしていたら「高野檜を買ってきて」と頼まれたのですが朝早かった為、店が開いておらず買うことが出来ませんでした。

9月の山行で膝を痛めていたので不安でしたが皆様のお陰で無事歩き通すことが出来ました。有り難うございました。



早朝修行僧の行列（写真 竹本加代子）

2日目 「大股から三浦口コース」
14852 竹本 正幸

コースタイム：登山口 7:30→吉村家伯母子岳分岐 10:00→伯母子岳山頂 10:50→水ヶ元茶屋跡 12:46→待平屋敷跡 13:36→伯母子岳登山口 14:15→三浦口バス停 14:40→山本旅館 14:55 歩行 15.9キロ 所要時間：7時間10分

昨日終点のバス停までは宿の車で送ってもらい、7時30分出発。ヒノキ峠までいきなり急登である。コンクリート道でいきなりとくると体に堪える。伯母子岳分岐からは左の伯母子峠を目指す。峠からは左のトラバースコースは崩落のため通行禁止になっているため、伯母子岳頂上まで登り尾根道を下るコースをとる。伯母子岳（1344㍍）は、今日の最高地点になる。山頂から360度の展望を楽しみ、広葉樹の紅葉の尾根道を下る。

途中ハチの巣の警告があり静かに遠廻りをして通過する。道幅が狭く左が崖の道が続き弘法大師の祠



伯母子岳 （写真 町元里香）

がある水ヶ元茶屋跡を通過する。待平屋敷跡からつづら折れの急な下り坂を降りると、伯母子岳登山口に着く。舗装された道をバス停まで歩き、今日の宿である農家民宿「山本」に電話をする。ご主人が車で送迎してくれる。山本は農家民宿で定員は6人ま

での古民家である。おかみさんの田舎料理に舌鼓を打ち、ふっくらとしたお布団で今日の疲れも吹っ飛び。

3日目 「三浦口～十津川温泉コース」

16601 藤原 球子

コースタイム：登山口 7:15→吉村家後 7:50→三十丁の水 8:40→三浦峠 9:40→出店跡 10:40
→矢倉観音堂 11:22→西中バス停 12:20→「清響の宿山水」15:30
歩行 19.2 キロメートル 所要時間 8 時間

私の担当コースは、三浦口～十津川温泉。歩行距離 19.2 キロメートル、歩行時間 8 時間、三浦峠までの高低差が 700 メートルです。

三浦口バス停からスタート。神納川にかかる橋を渡ってすぐの三浦部落には石畳も残り棚田が美しく広がっています。少し登った所にある吉村家跡には、胴回りが 4～8 メートルある樹齢 500 年の大杉があ



小辺路 三浦峠（写真 大山時彦）

り、その枝の太くねじ曲がった姿に圧倒されました。それは、屋敷を風から守る役目をしていました。

他にもお茶碗やとっくりの欠片等が残っていて、屋敷跡の一部が覗えました。さらに、三浦峠までの道中は、道標地蔵や三十丁の石等が有り、三浦峠を越えれば下りは比較的緩やかな道でした。下りも茶屋や旅籠跡の古矢倉跡、水田跡や石垣が残る出店跡を通り西川バス停に到着。

ここから十津川温泉まで 8 キロメートル。計画では、歩けば 2 時間かかるのでバスに乗る計画でした。乗り遅れたら後が無いので、前日打合せをして宿を早めの出発に変更。ところがバス停に着いたのが 2 時間も早く、待っていても長いので歩きに変更。温泉宿に着いてすぐ温泉に入り、汗をかいた後のビールがとても美味しかったです。

4日目 「十津川温泉～熊野本宮大社コース」

17126 大山 時彦

コースタイム：橋本つり橋 8:00→果無集落 8:50→果無峠登山口 9:00→山口茶屋跡 10:50→果無峠→ハ木バス停 12:50→道の駅「ほんぐう」13:21（休憩）→祓殿王子跡 14:30→熊野大社本宮 15:00→バスで新宮駅へ移動 16:10→新宮駅 17:46→和歌山駅 20:01→橋本駅 22:30→<車移動>→小倉駅 6:30

歩行 15 キロメートル 所要時間 8 時間

私は最後の 4 日目、十津川温泉～ハ木尾～熊野本宮大社の担当でした。

実は今年 6 月にこのコースを友人と二人で歩いていたので、何となく安心でした。

しかし、全コース約 72 キロメートルは長いが当初の想いでした。そのとおりで初日の 17 キロメートル 7 時間歩きで左股関節に痛みを感じ、あと 3 日間歩けるのか不安の気持ちもありましたが、その夜、のせ川温泉と民宿でゆっくり休めたこともあり、体調は良く、2～3 日と長時間、高低差 1000 メートルの登り下りも体力的に

だんだんと慣れてきて、3 日目の車道を 2 時間以上歩いても大丈夫でした。よく大相撲で「足腰の痛みは稽



小辺路 果無峠登山口（写真 竹本加代子）

古で直せ！」の名言どおりを体感しました。

半年前に歩いた担当コースは、その頃は新緑の初夏で季節も変わっていたのか、また、出会うのもほとんどの日本人でしたが、今回は殆どヨーロッパ方面の外人ばかりで世界遺産とインバウンド影響のようでした。コースは最初から石並の登りが長く、途中途中の石仏地蔵の番号を三十仏等数えながら楽しいものでした。途中の十津川村も前回は賑わった雰囲気でしたが、今回は村人とも出会い静かな村の感じでした。

最終日で6人とも足腰が強くなったのか、下りは全員速足でほとんど下りを走る状態で予定どおり熊野本宮大社の参拝も元気に御利益をいただくことができ、帰りもJR、高速と安全に小倉帰途に着けました。今回、3泊4日と私には長時間でしたが民宿等、毎晩ゆっくりと宿泊、睡眠もとれたことが自分としては成功した要因だと思います。また、よき仲間との行動も有難かったです。



小辺路ゴールの熊野大社（写真 大山時彦）

山行・行事のお知らせ

— 3月 —

● 登山塾 九重やまなみキャンプ村テント泊

期 日 3月7日（土）～8日（日）

集 合 キャンプ村 15:00

行 程

7日 テント、ツェルトの設営

8日 九重5峰トレッキング キャンプ場 7:00
→牧ノ戸 7:30→星生山→久住山→稻星山
→中岳→天狗ヶ城→牧ノ戸 14:30 解散

申込み 竹本正幸 Tel090-6739-9251

✉ takemoto.masayuki@white.plala.or.jp

締切り 2月21日（土）

● 山の自然学習登山 ジオトレッキング（立花山）

期 日 3月14日（土）

集 合 立花山登山者駐車場 8時30分

行 程 駐車場→松尾山→白岳→立花山→三日月山
→駐車場（所要時間約5時間）

目 的 立花山山塊の地質・地形・植生の観察

申込み 横山秀司 yoko-hideji@ab.auone-net.jp

締切り 3月1日（日）

● 月例山行 大師山（473㍍）・白滝山（453㍍）～ミニ遍路道を歩き、絶景に会いに行こう～

期 日 3月29日（日）※期日が変更になりました。

集 合 小倉駅または小倉南区文化記念公園駐車場
6時（乗り合い可）

行 程 白滝山登山口→大師山→裏白滝山→白滝山
→白滝山登山口（山口県岩国市美和町）

周回 4～5時間（歩行距離 約4.5㌔
高低差 約500㍍）

申込み 町元里香 ✉ yunaе.runa@gmail.com

締切り 3月8日（日）

— 4月 —

● 第27回総会・懇親会

期 日 4月18日（土）

※詳細は後日お知らせします

● 月例山行 親父山（1644㍍）

見に行こう！アケボノツツジとツクシシャクナゲ

期 日 4月25日（土）～26日（日）

集 合 黒原越展望台（宮崎県高千穂町）10時30分

行 程

25日 展望台→赤川原岳→展望台（CT2.5時間）
四季見原すこやかキャンプ場へ車移動

26日 （朝食後車で）→四季見橋登山口→三尖→
黒岳→親父山→障子岳→登山口
(CT約7時間)

宿 泊 四季見原すこやかキャンプ場交流センター
(予定)

装 備 ロッジ泊装備、日帰り装備一式

申込み 橋川潤 ✉ hashikawa_0406@yahoo.co.jp

締切り 3月10日（火）

- 5月 -**● 山の自然学習登山 平尾台のカルスト台地と花**

期 日 5月16日（土）
 集 合 平尾台・千貫台駐車場 8時30分
 行 程 駐車場→大かん台→堂金山→貝殻山→茶が
 　　床→駐車場（所要時間約5時間）
 目 的 平尾台における春の花（ムラサキ、シラン
 　　など）と地形の観察
 申込み 横山秀司 yoko-hideji@ab.auone-net.jp
 締切り 5月2日（土）

**● 月例山行 青野山と地倉沼（島根県）
 初夏の青葉とチョウジソウ**

期 日 5月23日（土）
 集 合 小倉駅 6時30分
 行 程 小倉駅→青野山登山口 P→青野山→P→青野
 　　山駅 P→地倉沼→P→小倉駅
 装 備 日帰り装備一式

▲▲ポレポレ会山行▲▲**- 3月 -****● 奇岩の岩屋神社とゲンカイツツジ**

期 日 3月20日（金・祝）
 集 合 小倉駅日田彦山線ホーム先頭車両
 　　8:11発後藤寺行き乗車 途中駅での乗車
 　　可 後藤寺、添田乗換えて筑前岩屋へ
 行 程 筑前岩屋駅着 10:15→岩屋神社散策→筑
 　　前岩屋駅 14:30/14:48発小倉方面行
 　　き乗車 小倉着 17:00 解散
 申込み 丹下治 Tel090-3732-8843
 締切り 3月6日（金）

- 5月 -**● 千支の山 馬が岳ハイク**

期 日 5月16日（土）
 集 合 道の駅香春 9:30
 行 程 道の駅香春 9:30→大谷駐車場→馬が岳→
 　　大谷駐車場 13:00 解散

申込み 橋川潤 E-mail:hashikawa_0406@yahoo.co.jp
 締切り 5月10日（日）

- 6月 -**● 月例山行 日本山岳遺産 馬見山（977.8m）
 ~干支の山~**

期 日 6月7日（日）
 集 合 馬見山登山口（集合場所は変更になること
 　　があります）
 行 程 楽しいコースを検討中のため詳細は後日お
 　　知らせします。
 申込み 大山時彦 E-mail:oooyamagumi717@gmail.com
 締切り 5月24日（日）

● 夏山フェスタ in 福岡

期 日 6月27日（土）～28日（日）
 ※詳細は後日お知らせします。

申込み 丹下治 Tel090-3732-8843
 締切り 5月2日（土）

- 6月 -**● 長野山（山口県 1015m）ササユリ鑑賞**

期 日 6月20日（土）
 集 合 JR小倉駅北口 KMMビル前 7:30
 　　JR門司駅北口 7:45
 　　中国道湯田温泉 PA9:00
 行 程 小倉駅 7:30→門司駅→湯田温泉 PA→鹿
 　　野IC→長野山 10:15（山頂付近散策）
 　　/14:00→湯田温泉 PA→門司→小倉駅北
 　　口 16:30 解散
 時間があれば鹿野漢陽寺など見学
 申込み 丹下治 Tel090-3732-8843
 締切り 6月6日（土）
 会 費 約5000円
 その他 13人乗りバス使用

令和7年度 行事・月例山行計画			※変更になりました(赤字)		
月	日	行事・山行	担当	内 容	実施人数
4	13日(日)	月例山行	山行委員会	裏英彦山ロング周回コース	13人
	19日(土)	第26回通常総会・懇親会	支部行事	毎日新聞会館、コール天	23人
	24日(木)～27日(日)	国東半島 山岳古道集中山行	本部行事	両子山までABCの3コース。26日に懇親会	5人
5	9日(金)～12日(月)	月例山行	山行委員会	四国遠征 岩稜と花の赤石山系	10人
	17日(土)	自然環境保全事業	横山	希少植物・ムラサキの監視活動、平尾台	中止
	17日(土)	ポレボレ	繩田	大海山	中止
	18日(日)	第1回登山塾	竹本	オリエンテーション、山行計画書、登山装備、ルーム	3人
	25日(日)	岩登り	山行委員会	国見岩または陶が岳	中止
6	7日(土)	自然環境保全事業	赤瀬	森林保全巡視活動 笠置山	7人
	15日(日)	月例山行	山行委員会	ササユリの勘ヶ岳、弟見山	7人
	22日(日)	第2回登山塾	竹本	登山アプリと読図の基本、楽な歩き方、平尾台	中止
	28日(土)～29日(日)	夏山フェスタin福岡	支部行事		13人
7	5日(土)～6日(日)	月例山行	山行委員会	夏山訓練(九重を歩こう！)	8人
	19日(土)	ポレボレ	丹下	岳切渓谷他	7人
8	31日(日)	沢登り	山行委員会	平尾台千仏谷	8人
9	20日(土)～21日(日)	九州5支部懇	支部行事	熊本支部	7人
	27日(土)	月例山行	山行委員会	宝満山(窟巡り)	10人
	28日(日)	ポレボレ	繩田	天山、吉野ケ里遺跡 バスハイク	10人
	28日(日)	第3回登山塾	竹本	栄養と水分補給、熱中症、低体温症対策とビバーク、テント設営他	中止
10	4日(土)	自然環境保全事業	横山	セイタカアワダチソウ除去作業、平尾台	13人
	11日(土)～12日(日)	月例山行	山行委員会	テント泊、鳥取大山(鳥ヶ山、甲ヶ山、矢筈ヶ山)	中止
	19日(日)	槙有恒碑前祭	支部行事	風師山	21人
	25日(土)～26日(日)	全国支部懇	本部行事	関西支部	8人
11	1日(土)	ポレボレ	原	ダルマ菊、角島	9人
	2日(日)	山の日記念登山	横山	自然学習登山 平尾台	10人
	3日(月)～4日(火)	宮崎ウェ斯顿祭	支部行事	高千穂町	2人
	5日(水)	裁判所委託登山	支部行事	風師山	6人
	8日(土)～9日(日)	4支部交流会	支部行事	広島・山陰・四国の支部交流会 九重山	13人
	15日(日)	自然環境保全事業	横山	森林保全巡視活動 三郡山	中止
	16日(日)	第4回登山塾	竹本	気象遭難をなくすための観天望気、福智山	中止
	30日(日)	月例山行	山行委員会	九州オルレ(奥豊後コース)	7人
12	6日(土)～7日(日)	年次晚餐会	本部行事		8人
	13日(土)	忘年登山・忘年の集い	支部行事	足立山・小文字山 コール天	
1	11日(日)	ポレボレ	繩田	山口市三社参り	
	17日(土)～18日(日)	月例山行	山行委員会	新年登山、雲仙	
	25日(日)	第5回登山塾	竹本	初級雪山登山、深入山又は吉和冠山	
2					
3	1日(日)	月例山行	山行委員会	九重	
	7日(土)～8日(日)	第6回登山塾	竹本	テント泊、九重山	
	14日(土)	山の自然学習登山	横山	Geoトレッキング 立花山	
	20日(金)	ポレボレ	繩田	ゲンカイツツジ、岩屋神社	
	※29日(日)	月例山行	山行委員会	大師山～白滝山周回	
	※各行事の担当者の連絡先については事務局の清家幸三までお尋ねください。				
	メールアドレス qqmn2kd9k@fuga.ocn.ne.jp 携帯電話 090-8664-4411				

**会務報告 令和7年度 第3回役員会議事録
事務局 清家幸三**

日 時 令和7年9月18日(木)
18時00分~20時00分
場 所 北九州支部ルーム
出席者 竹本 横山 町元 久保 安藤 清家
欠席者 榊 日向 橋川 大山

議 事

I 支部長挨拶

これから支部行事が増えていくが、各分野の分担を決めて支部運営に協力を願いしたい。また、山行について山岳事故の多い長野県の県警のパトロールが厳しくなっているので、登山の計画に基づいてしっかりと準備をするにしなければならない。

II 各委員会より報告

1 自然保護委員会 (横山)

森林保全巡回活動は更新がなければとりやめる。山の日記念登山のパンフの作成に取り掛かり関係部署へ配布する。また、一般参加への広報をしていかなければならない。

2 山行委員会 (町元)

7月は夏山登山の訓練をする。

沢登りは8人、9月の宝満山は9人。10月は大山の予定

3 広報委員会 (橋川)

4 事務局及び総務委員会 (清家)

今後の予定

- (1) 9月20日21日の九州5支部懇談会
- (2) 10月19日の槙有恒碑前祭
- (3) 11月3日4日の宮崎ウェ斯顿祭
- (4) 11月8日9日の四支部交流会
- (5) 12月6日7日の晩餐会
- (6) 12月13日の忘年の集い

5 財務委員会 (久保)

財政状況、会員の納入状況について

III その他.

- 1 風師山の下見を兼ねて草取り及び清掃を実施。(竹本、清家)
- 2 11月5日に裁判所委託登山。
- 3 ポレポレにシニア登山を取り入れて各月に行う計画。

IV 次回役員会の日程 令和7年11月13日(木)

**会務報告 令和7年度 第4回役員会議事録
事務局 清家幸三 総務委員会 大山時彦**

日 時 令和7年11月20日(木)
18時00分~20時00分
場 所 北九州支部ルーム
出席者 竹本 横山 日向 清家 久保 町元 橋川
安藤 大山
欠席者 榊

議 事

I 支部長挨拶

9月~11月に多くの行事(支部行事、外部行事、個人山行)が遂行された。会員及び役員の協力の下に安全にまた盛会に終了したことへお礼を申し上げる。また、引き続き年末に向けての活動がスムーズに行えるため協力を依頼する。

II 各委員会より報告

1 自然保護委員会 (横山)

- (1) 10/4(日) セイタカアワダチソウ除去
参加人数 13人

(2) 11/2(日) 山の日記念登山

一般8人支部10人計18人 PR活動:毎日新聞、ホームページ、北九市の広報掲示

(3) 11/15(土)自然環境保全事業

参加者無しで中止

2 山行委員会 (町元)

- (1) 11/5(水) 裁判所依頼山行(6人参加)

(2) タープとポールを購入

(3) 4月以降の計画は12/1に山行委員会で決定

(4) 11/16(日) 第4回登山塾

参加希望者なしで中止。初心者等の参加者確保等が課題

3 広報委員会 (橋川)

- (1) 1月支部報発行の原稿の締切り(11月末)

(2) アーカイブ掲載のための北九だより(PDF)は今後広報委員会より本部へ送る。

4 事務局及び総務委員会 (清家、大山)

- (1) 9月20日21日の九州5支部懇談会(熊本支部主催、7人参加。阿蘇の古道を歩く)

(2) 10月19日の槙有恒碑前祭(碑前祭参加40人、懇談会35人)

(3) 10月25日26日の全国支部懇

関西支部主催、北九州より8人参加、来年は富山支部予定

(4) 11月3日4日の宮崎ウェ斯顿祭

横山、清家の2人参加

(5) 11月8日~9日の四支部交流会

9日雨天の為、8日夜懇親会のみ開催。山陰8人、四国9人、広島9人、北九州14人計40人参加。盛会に懇親を深められた。

来年は四国支部の予定

編集後記

昨年はクマによる人身被害がこれまでなく多発した。ブナやドングリの凶作が原因などと言われているがそんな単純な話ではないようだ。しかし、クマの生息環境と人間の生活環境の均衡が大きく変化したのは間違いない。

九州ではツキノワグマは絶滅し山を歩くのにも心配はない。その分、クマになれない九州の岳人は本州や北海道で登山するときは周到に準備を行い、周囲の気配にも十分に気を配りながら歩きたいものだ。(J.H.)